

赤ちゃんの でべそについて

千葉県小児科医会 むらまつ としのり 村松 俊範 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00～翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939

Q1 正常な臍とはどういうものですか

臍は、出生後およそ1週間ほどで乾燥脱落（臍の緒が取れる）し、はんこん 癒痕（傷あと）となり、周りの皮膚と比べかんぼつ 陥没（くぼむこと）し、泣いても変化がないものが正常の臍です。

Q2 でべそとはどういうものですか

いわゆる「でべそ」は大きく2つに分かれます。

一つは生後1か月前後（臍脱から2～3週間）頃から、主として泣いたときに臍が膨隆（盛り上がる）するもので、「臍ヘルニア」と呼ばれます。泣いたり力が入ったりしたときに膨隆しますが、普段は普通の形をしています。生後2～3か月頃に膨隆がピークに達し（臍の形がなくなるほど膨隆します）、その後徐々に改善してきます。軽度のもも含め新生児の10～20%に臍ヘルニアがあると言われていますが、90%程度は自然治癒すると考えられています。

もう一つは「臍突出症」と言われるもので、臍の形は正常にできていますが、常に臍の一部が飛び出している状態です。これは皮膚の形の問題なので、治ることはありません。

Q3 治療する必要がある場合等、 詳しく教えてください

「臍ヘルニア」は、自然治癒する可能性がある病気ですので、軽症の場合はそのまま経過観察とする場合もありますが、治っても皮膚のたるみが残り、見栄えが悪くなることが多いため、最近は積極的に圧迫する治療法が徐々に増えてきています。圧迫する場合は、早期の治療開始（生後6か月を過ぎると治療効果が減少します）が有効と考えられておりますので、かかりつけ医にご相談ください。2歳を過ぎても治らない場合は、必要に応じて手術を行うことがありますので、小児外科あるいは形成外科にご相談ください。（わからない場合は、かかりつけの小児科医にご相談いただければ、適切な医療機関を紹介していただけたと思います。）

「臍突出症」は見かけ以外に悪さをすることはありませんので、外見が気になる場合のみ手術を考慮します。機能的に問題はないので、場合によっては医療保険の適応外となる可能性があります。

